



いじめや問題行動について

今回は、「いじめや問題行動」についての取り組みについてお話していきます。いじめは、決して許される行為ではありません。いじめは、学校や保護者、地域などはもちろん、社会全体で考えていかなければならない問題です。

いじめの定義（文部科学省）

「いじめ」とは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」とされています。この定義には、インターネットを通じて行われるいじめも含まれ、いじめの発生場所は学校内外を問わない。

拓勇小の取り組み

1. いじめアンケート、教育相談

年2回、全校児童を対象にいじめアンケートを実施しています。これは全国で実施されているものです。自分がされたいやなことや、友だちがされたいやなことなどを書きます。1学期にも5月から6月にかけて実施し、その後児童に聞き取りを行って事実である場合は指導しました。また、同時期に担任が学級の児童全員と1対1で、学習面や友達関係、困っていることなどについて教育相談を行いました。2学期にも実施します。

2. いじめ根絶委員会

4年生から6年生までの委員会活動の中には、いじめ根絶委員会があります。年間を通して、児童自身がいじめの問題について考え、適切な行動ができるようにするとともに、思いやりのある学校づくりについて、各学級で話し合ったりします。

6月末には、「いじめ根絶を考える週間」が行われました。1年生から6年生までの各学級で、いじめを根絶するための話し合いを行い、話し合われた内容を各学級ごとにポスターにまとめ、1階ホールに掲示しました。



7月1日には、「いじめ問題子どもサミット」が行われました。いじめ根絶委員会の代表が、苫小牧市内の各小学校の児童と「いじめ問題」について、どのような取り組みをしているのかを交流しました。

3. 学級の取り組み

学級では、友達同士のトラブルがたまにあります。その時にどのような対応をしているのか、基本的な流れが下記のようになります。

- ①双方から事情を詳しく聞く。
- ②話が食い違う場合は、他の児童に聞くこともあります。
- ③事実が確認できたら、何が悪かったのかをしっかりと反省させ、謝らせます。
- ④必要があれば、保護者に連絡します。

ただ最近では、問題が起きたあとの対応よりも、問題やトラブルを起こさない、未然に防ぐことに重点をおいて、取り組むことが大切とされています。その基本となるのが「**学級経営**」です。子どもたち1人1人が、楽しく安心して生き生きと学習、生活できる学級づくりをすることで、いじめや問題行動をなくすというものです。学校では、以下の3点を中心に取り組んでいます。

①教師による「居場所づくり」

学級の一人一人が安心でき、充実感を得られる場所をつくりだすことです。

- いじめを許さない毅然とした対応
- 真面目な児童が損をしない学級づくり
- 課題を抱える子に寄り添う姿勢

②子どもによる「絆づくり」

主体的に取り組む協働的な活動を通して、子どもたち自身が「絆」を感じ取り、紡いでいくことが大切です。ここでは、教師は「場や機会の提供」という裏方の役割となります。

- 日々の授業での全員の活躍する場面の実現
- 係活動や学級活動での協働的な活動の推進
- 学校行事における連帯感と認め合い

③情報の共有

教師間、学校と家庭など、様々な角度から情報を集め、共有しておく

- 複数の教師で子供たちを見守る体制
- 教員同士の情報共有
- 保護者との連絡をとりやすい関係

学級を、学年を、よりよい集団へとレベルアップさせるように意識して働きかけること、それが大切です。集団としてよりよくレベルアップしていけば、子どもたち自身の規範意識が高まったり、自浄作用が働いたりして、トラブルそのものが少なくなっていくはずです。よい学級経営を行うことで、未然にいじめやトラブルを防ぐように学校全体として取り組んでいます。

4. その他

保護者の方からたまにあるのが、加害者の保護者の方が「被害者の保護者に謝罪した方がいいでしょうか。」という質問です。もし、そのような相談があった場合は、被害者の保護者の方に「連絡先を教えてもかまいませんか」と連絡します。場合にもよりますが、一言あるとその後の子ども同士や保護者同士の関係性もスムーズになると思います。保護者の皆様の中にも、自分の子どもがされた、やられた時の気持ちをどのように感じたか、経験のある方もおられると思います。

す。社会生活では一般的には当たり前のことですね。また、そのような行動を子どもに見せることも、子どもにとって大切なことだと思います。

5. まとめ

子どもは、まだまだ未熟なので間違いやトラブルを起こすこともあります。また、先生や親に対して、よく見られたいという気持ちで事実ではないことを思わず口にしてしまうこともあります。そういうことも含めて、同じ間違いをしないよう、「何がよくなかったのか、どうすればよかったのか、これからはどうしたらよいのか」を、しっかり子どもたちの心におとしていくことが大切です。

学校、保護者、地域、社会全体で、子どもたちの健やかな成長を見守っていくことが、これからますます大切になります。学校として、これからも子どもたち一人一人の成長のために全力を尽くしていきますので、保護者の皆様にも、引き続きご協力よろしくお願いします。